






疾病 (異常)	2 1 変 性 (筋肉の変性)	
肉 眼 所 見	<p>1 暗赤色とたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉が全域的に暗赤色化し、とたい全体が暗赤色調の強い外観を呈している。 ・筋肉の変化が部分的な場合は、暗赤色部と灰白色部が筋線維の走行に一致して幅の広いスタレ状に交雑している。 ・いずれもとたいが乾燥ぎみで、暗赤色化した筋肉は硬度を増している。 <p>2 蒼白色とたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体表の筋肉が全般に白色となり、とたいは著しく蒼白な外観を呈している。 	
廃棄等 の根拠	別表第10	
		
外観は暗赤色を呈している。	剥皮所見では、浅胸筋全域が暗赤色を呈している。	とたいは、暗赤色部と灰白色部が交雑している。
		
とたいは暗赤色部と灰白色部が交雑している。	体表の筋肉が全般に白色となり、とたいは著しく蒼白な外観を呈している。	

疾病 (異常)	2 1 変 性 (筋肉の変性) つづき		
肉 眼 所 見	<p>3 浅胸筋変性症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較的発育が良好なとたいにみられ、胸部筋肉は張りがよく、扁平で硬固であり、皮膚には異常がみられない。 ・剥皮すると浅胸筋の表面は異常のないもの、白色線条病変が認められるもの、あるいは肥厚し、皮下織と癒着し、点状出血が認められるものがある。 ・浅胸筋は広範囲あるいは部分的に退色し、硬固感がある。病変は胸部表層ほど強く、病変が深部に波及したとたいでは、深胸筋が硬く、退色している場合もある。 ・30日齢前後のと体でも確認されている。 		
廃棄等 の根拠	別表第10又は別表第11		
			
皮膚に異常はなく、胸部は扁平で、硬固である。	胸部の張りがよく、浅胸筋の表面に異常が認められない。	筋上膜は肥厚し、皮下織と癒着し、点状出血が認められる。肥厚している領域は膠様滲出物で覆われているようにみえるが、化膿性の病変ではない。	
			
浅胸筋の断面は表層ほど退色が重度で、深部は軽度となっている。	浅胸筋のほか深胸筋も退色している場合がある。	34日齢のとたいで浅胸筋に白色線条病変が認められる。	